

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/> )

(MENAランキングシリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MENAranking.html> )

マイライブラリー:0227

(注)本稿は 2012 年 5 月 6 日から 30 日まで3回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2012.5.30  
前田 高行

### 「アラブの春」は「報道の自由」を生んだか (MENA なんでもランキング・シリーズ その9)

<u>目次</u>	<u>頁</u>
1. 「Press Freedom Index」について	2
2. 2012年版の MENA 各国の「報道の自由度」ランク	2
3. 「アラブの春」の前後(2010年と2012年の比較)	3
4. 主要国の2007年～2012年世界順位の推移	5

中東北アフリカ諸国は英語の Middle East & North Africa の頭文字をとって MENA と呼ばれています。MENA 各国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。なお MENA の対象国は文献によって多少異なりますが、本シリーズでは下記の 19 の国と 1 機関(パレスチナ)を取り扱います。(アルファベット順)

アルジェリア、バハレーン、エジプト、イラン、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェイト、レバノン、リビア、モロッコ、オマーン、パレスチナ自治政府、カタール、サウジアラビア、シリア、チュニジア、トルコ、UAE(アラブ首長国連邦)、イエメン、

これら19カ国・1機関をおおまかに分類すると、宗教的にはイスラエル(ユダヤ教)を除き、他は全てイスラム教国家であり OIC(イスラム諸国会議機構)加盟国です。なおその中でイラン、イラクはシーア派が政権政党ですが、その他の多くはスンニ派の政権国家です。また民族的にはイスラエル(ユダヤ人)、イラン(ペルシャ人)、トルコ(トルコ人)以外の国々はアラブ人の国家であり、それらの国々はアラブ連盟(Arab League)に加盟しています。つまり MENA はイスラム教スンニ派でアラブ民族の国家が多数を占める国家群と言えます。

第9回の MENA ランキングは、ジャーナリストの NGO 団体「国境なきレポーター(Reporters Without Borders)」(略称:RSF)が発表した「報道の自由の指標 2012(Press Freedom Index 2012)」から MENA 諸国をとりあげて比較しました。



RSF ホームページ:<http://en.rsf.org/>

Press Freedom Index 2012:<http://en.rsf.org/press-freedom-index-2011-2012,1043.html>

## 1. 「Press Freedom Index」について

「国境なきレポーター(Reporters Without Borders)」は、1948 年の世界人権宣言、及びこれに続く 1950 年の「人権と基本的自由の保護に関する会議」などで採択されたいくつかの憲章や宣言に触発され、各国の報道関係者が自発的に結成した非政府組織(NGO)である。フランスのジャーナリストが中心となって設立されたため、正式の組織名は Reporters Sans Frontieres であり、その頭文字をとって RSF と略称され、本部はパリにある。

RSF は、世界各国で取材妨害を受け、時には生命の危険に晒されているジャーナリストを保護し、その障害を取り除く活動を行っており、その一環として 2002 年から毎年、報道の自由度に関する各国のランク「報道の自由の指標(Press Freedom Index)」を公表してきた。この指標は RSF が作成した 50 項目のアンケートに対して、世界各地の表現の自由のための擁護組織団体及び多数のジャーナリストが回答した結果を集計したものである。

Index は毎年 10 月に発表されてきたが今回の最新版は今年 1 月にずれこんだため「Press Freedom Index 2012」となった(以下 2012 年版)。2012 年版 Press Freedom Index は世界179カ国の報道の自由度を指標化し、ジャーナリストに対する各国の対応ぶりを評価したものである。このため報道の規制または記者の逮捕などの政府の取材妨害があった国、或いはジャーナリストが誘拐・殺害に遭った国についてはその年のランクが低くなる傾向がある。なお、RSF 自身は、このランクは「報道の質」の良否を示すものではない、と断っている。

よく知られている通り昨年 MENA 諸国に「アラブの春」と呼ばれる改革の嵐が吹き荒れた。このため一部の国では評価が大きく変化しており、第 3 項ではそれらいくつかの国を取り上げてその理由を分析した。

## 2. 2012年版の MENA 各国の「報道の自由度」ランク

(表<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-9aPressFreedomTable.pdf>参照)

MENA 諸国で最もランクが高いのはクウェイトであり、同国の世界ランクは78位である。クウェイトに次いでランクが高いのはイスラエル(世界順位92位)、レバノン(同93位)でありMENAではこれら3カ国だけが世界100位以内である。その他の17カ国及びパレスチナは全て世界100位以下で

あり、しかもそのうち150位までが8カ国、151位から169位までに5カ国ある。そして170台と言う世界最低ランク(最低は179位)が実に4カ国もあり、世界のジャーナリストはMENA地域の報道の自由度に対して極めて厳しい評価を下していることがわかる。

100位から150位の国はUAE(112位)、カタール(同114位)、オマーン(同117位)、アルジェリア(同122位)、ヨルダン(同128位)、チュニジア(同134位)、モロッコ(同138位)及びトルコ(同148位)である。また151位から169位まではイラク(同152位)、パレスチナ自治政府(同153位)、リビア(同154位)、サウジアラビア(同158位)及びエジプト(同166位)の各国である。そして世界最低ランクの170位台の国はイエメン(同171位)、バハレーン(同173位)、イラン(同175位)及びシリア(同176位)である。

MENA の下位6カ国のうちエジプト、イエメン、バハレーン及びシリアは昨年 MENA 地域に吹き荒れた「アラブの春」の影響で国内の治安が乱れており、報道に対する制約が厳しくなったことが影響していると考えられる。サウジアラビア(世界158位)とイラン(同175位)は比較的治安が良好であるにもかかわらず報道の自由度はイラク(152位)やリビア(154位)よりも悪い。ジャーナリストたちが単に治安の良否だけでなく、当局による取材制限に対して厳しい評価を下していることがうかがえる。

ちなみに世界で報道の自由度が最も高いとされたのは、フィンランドとノルウェーであり、その他上位も多くは北欧の国々である。日本は世界22位であり比較的高い評価である。米国のランク(47位)は日本よりかなり低く韓国(44位)よりも下位である。また中国は世界174位であり最下位グループに評価されている。

### **3. 「アラブの春」の前後(2010年と2012年の比較)**

昨年「アラブの春」の洗礼を受けていくつかの MENA 諸国で体制が揺らいだ。中には支配者が交替した国(エジプト、チュニジア、リビア)、或いは未だ不安定な状況にある国(シリア)がある。また体制が変化しないまでも支配者が自ら改革を掲げ、或いは国民に何らかの妥協や懐柔策を示した国も少なくない(バハレーン、オマーン、モロッコなど)。ここではそれらの国における「アラブの春」前後の報道の自由度を見てみよう。

#### (1) チュニジア(前回164位→今回134位)

チュニジアは今回順位を30位アップさせている。長期独裁政権が倒れ、民主的な選挙が実施され平静を取り戻しつつあることが評価されたようである。

#### (2) リビア(前回160位→今回154位)

カダフィ政権が崩壊しメディアに対する規制が緩和され、また一時に比べて治安が確保されていることが「報道の自由」のランクを上げている。

#### (3) エジプト(前回127位→今回166位)

昨年2月のムバラク大統領辞任後、軍部臨時政府により治安が回復したが、失業など経済問題の改善が見られず首都では軍政批判のデモが続いている。その後国会選挙によりイスラム勢力が多数を制した。エジプトの「報道の自由」ランクが落ちているのはRFSのアンケートに応じたジャーナリストが西欧メディア中心であるため、同国のイスラム勢力の台頭により活動が制約された(或いは今後制約がさらに厳しくなる)とみなしているためかもしれない。大統領選挙とそれによる今後のエジプトの動向が注視される。

(4) バハレーン(前回144位→今回173位)

昨年激しい反政府デモに見舞われたバハレーンであるが、サウジアラビア及び UAE による GCC 治安部隊投入により政権転覆を免れ、現在スンニ派政権とシーア派国会勢力の間で政治・社会改革の方策が話し合われている。昨年中止されたF-1 グランプリも今年は厳戒態勢のもとで無事開催された。しかし若者を中心とする一部のシーア派市民は今も激しい街頭闘争を繰り広げシーア派地区の治安は悪化し、当局によるメディア規制も厳しいと言われる。外国ジャーナリストは F-1 グランプリよりも紛争現場の取材に力を入れており、取材に困難や危険を感じていると推測される。バハレーンの「報道の自由」のランクが大幅に落ちたのはそのためではないだろうか。

(5) イエメン(前回170位→今回171位)

イエメンの順位は前回に比べ1ランクの下落にとどまっているが、これは同国が既に世界の最下位グループにあるためである。同国では昨年「アラブの春」に触発され、学生や若者が街頭デモを繰り広げ、国際社会の注目を集めた(同国の女性活動家に昨年のノーベル平和賞が与えられたことは記憶に新しい)。これら一般市民の活動に加え、部族や宗派の対立が泥沼化し、サーレハ大統領は退陣した。しかしこれらの変化によって同国における報道の自由が改善される兆候は見えず、引き続きランクは低いままである。

(6) シリア(前回173位→今回176位)

現在のシリアは内戦状態に陥っており、政府の報道管制も厳しい。「報道の自由」にはジャーナリストにとって安全で自由な取材が可能であるとともに、政府機関の検閲からも自由であることが必要である。シリアの順位が前回よりダウンしたのは「アラブの春」によってこれら両面における自由度が低下したと言えよう。

(7) ヨルダン(前回120位→今回128位)

同国における報道の自由に対する状況に大きな変化は見られないが、アンマンの AFP 支局襲撃事件やジャーナリストに対する警察の暴力沙汰などによりランクが低下した。

(8) モロッコ(前回135位→今回138位)

Al-Massae 編集者の Rachid Nini が投獄され、現在も拘束されていることがランク下落の理由とされている。

上記以外の主要国における順位の変化は以下の通りであった。

(9) イラク(前回130位→今回152位)

今回イラクは22ランクと大幅に落ち込んだ。RSFはその理由の一つとしてジャーナリスト殺害事件が多発していることをあげている。同国北部のクルド地区はこれまでジャーナリストの避難場所となっていたが、シーア派中央政府とクルド地方政府が対立し、ジャーナリストが治安部隊の目標となるケースが増加している。

(10)イスラエル(前回86位→今回92位)

順位下落の理由として Haaretz 紙記者が7年の刑を受ける危険に晒されていること、及び昨年11月の議会でメディア法が可決されたことがあげられる。RSF はイスラエルでは報道の自由が認められていることを評価しているが、一方で軍部による事前検閲があることを問題視している。

(11)UAE(前回87位→今回112位)

今回大幅に順位を下げたのは同国でインターネット情報にフィルターがかけられるようになったことがあげられる。湾岸諸国ではインターネットが普及し有力な反政府メディアとなっているが、その一つとされる「The UAE 5」の関係者が当局に拘束されたと報じられている。

MENA19カ国1機関(パレスチナ自治政府)のうち、今回順位がアップしたのはクウェイト、カタール、オマーン、アルジェリア、チュニジアの5カ国のみであり、その他の14カ国及びパレスチナは順位がダウンしている。また MENA の平均順位も前回の133位から今回は138位に落ちている。このように MENA は「アラブの春」と呼ばれる民主化運動の激しい波に洗われたが、「報道の自由」の面ではむしろ悪化しているのが実情である。MENA 諸国のランクが上がるのはまだ当分先のことのようにある。

#### **4. 主要国の2007年～2012年世界順位の推移**

本項では主な国の2007年から2012年までの「報道の自由」世界順位の推移を見ることとする。なお全世界の調査対象国数は2007年が169カ国であり、その後年々増加して今回(2012年)は179カ国に達している。このため順位の単純な比較には多少の問題があるが、ここでは各年の順位をそのまま用いている。

イスラエルは2007年には世界44位、2008年46位であり、世界の上位グループに位置し、MENA の中では飛びぬけて報道の自由度が高いと評価されていた。しかし2009年には一転して世界175か国中の93位に急落、それ以降も2010年86位、2012年92位と低迷しており、MENA の中でもクウェイトより下位にランクされるようになってきている。これはヨルダン川西岸への入植地拡大(2009年以降)やトルコのガザ支援船拿捕事件(2010年)などでジャーナリストの自由な取材を制約したことにより外国メディアの同国に対する評価が厳しくなっているためと考えられる。

バハレーンのこれまでの順位は118位(07年)→96位(08年)→119位(09年)→144位(10年)→173位(12年)であり2009年以降急激に悪化している。同国には古くからスンニ派の少数派政権に対し人口の7割を占めるシーア派による根強い抵抗運動があったが、昨年の「アラブの春」によ

ってこの運動に一気に火がつき大きな騒乱事件に発展している。このことがメディアの取材にも影響し2010年、2012年と連続して順位が大きく低下したものである。

エジプトの場合は2007年から2009年までの3年間は140位台半ばが続いていた。2010年には127位まで上昇したものの、2012年には一挙に166位に後退している。同国では1981年以降29年間にわたり強権政治が続き、その間メディアは自由な取材を妨げられたため「報道の自由」は低い評価にとどまっていた。2011年にムバラクが退陣した後イスラム勢力が台頭したことと西欧を中心とする外国メディアによる「報道の自由」の評価が急落したこととの因果関係が指摘される(上記3項参照)。

チュニジアはエジプトと同様ベン・アリ大統領が21年間の独裁政治を行ってきたが、同国の順位は145位(07年)→143位(08年)→154位(09年)→164位(10年)と年々下落した後、2012年には134位と劇的に改善している。同国の場合はベン・アリ政権末期になるほどますます強権政治になり、それが2011年の「アラブの春」革命の結果ムスリム同胞団系の穏健政党が国会の多数を握り、治安が安定し報道の自由が確保されたことがジャーナリストの評価のアップにつながっている。

上記の国々に対しイランは166位(07年)→166位(08年)→172位(09年)→175位(10年)→175位(12年)と世界の最低ランクに低迷し、近年は悪化の傾向すら見受けられる。MENAの平均順位も115位(07年)→120位(08年)→127位(09年)→133位(10年)→138位(12年)と毎年悪化している。調査対象国の数が毎年1乃至4カ国増加していることを考慮しても、MENAの報道の自由度が低落していることは疑いようがない。「アラブの春」が報道の自由を期待させるものであったとしても現在のところでは社会的混乱がメディアの自由を奪っているのである。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行      〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601  
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642  
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp